

二葉

東京支部だより

題字 今井 綾子 (高女28回)

支部長挨拶

伝えること 繋ぐこと

東京支部長 五味のりほ



会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

まず初めに、会員の皆様のご協力を賜り、平成30年度東京支部総会が無事に開催できましたことに、厚く御礼申し上げます。

昨年の総会において、維持費の改定が承認されました。昨年度はこのことを会員の皆さんにお伝えして、ご協力いただくことを活動の主軸としてまいりました。お陰をもちまして、維持費、賛助会費ともに予算額を上回る入金がありましたことをご報告申し上げます。また、多くの方々よりご芳志をお寄せ頂きましたことに感謝申し上げますとともに、皆様からのご声援に身の引き締まる思いを新たにいたしました。

二葉生はどこかで繋がっている、という思いを強くした1年でした。去る平成27年5月岡谷美術考古館に故辰野登恵子氏の追悼展を訪ねて、色彩の豊かさに心ひかれたことが、恩師である二木六徳先生のご講演を賜ることに結び付きました。辰野登

恵子氏との出会いが、追悼展であったという自らのうかつさが悔やまれてなりません。

出会った方々について、また先輩の方々から伝え聞いた先人たちの息吹を、伝えていかなくは、と思います。

今年の冬、何年かぶりの御神渡りがありました。凍てつく氷の下、深い底から何物かが緩やかに動いている音を聞きました。陽光きらめく夏の諏訪湖とは異なる姿に、畏れに似た感動を覚えました。

同窓会なんて関心ないという方もおられることでしょう。思いは、人様々です。

おせっかいと感じる方もいると思いますが、同窓会はおひとりおひとりを繋ぐためにあると思います。

東京支部の11月の幹事会では、次年度の幹事さんのご推薦をお願いしています。毎年、各回生から同期を代表される幹事さんの名簿が続々と届くことに、東京支部の確かな力と、二葉生の気概を感じております。

同期会の楽しい集いが、東京支部の基礎ではないかと改めて思います。語り合い学び合い、心豊かなひと時を過ごされますように。
最後に、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

左:旧校舎 右:新校舎



「二葉の22年」

講師 二木六徳氏

元諏訪二葉高等学校美術科教師

諏訪二葉高校に昭和37年から22年間、美術科教師として勤務された、六さんこと二木六徳先生を講師としてお迎えしました。

現役時代と変わらぬお姿で登場され、張りのある声で、俺の「二葉の22年」についてスライドを見ながらお話しただきました。

まずはアカペラで、山の歌「いつかある日」(デュプラ作詞)を披露され、東京芸大山岳部仕込みの美声で皆の心をつかみます。

そして二葉に着任した日のお話へ。初めて二葉に来た時、まずその校舎に共感したと言います。廊下の佇まい、アーチ状になった天井、腰板、その静けさ。そして押し開く窓。まさに学ぶべき学び舎であると。入ってくる光によって交錯する梁の影に見惚れつつ、根底にあるのは思索する場であり、それこそが校舎であると。二葉の旧校舎への並々ならぬ思いが伝わってきました。

二葉祭のポスターは、美術選択者が描いて、生徒の投票で決まるのが恒例でした。あの年、投票上位以外のポスターをどうしても推したい、と全校生徒を集めて思いを伝えました。わかってもらいたい、理解してもらいたいことを、俺の言葉で皆に伝えた。これが生徒と教師のやり取りだ、と思える出来事だったそうです。

『教師として高校生に関わってよかった。子どもの域からだんだん脱しながら、やがて大人になっていく年代は、我が内なる心が大きく揺れる時。この時に俺が関わらないで誰が関わるか。生徒たちは授業に出てどういう興奮、驚きがあるか。俺が今一番感じていること、それを生徒に向けた時どうであるか。その中で様々なテーマをぶつけた』と。先生のライフワークとも言える絵本の世界について。二葉に在任中にお子さんが生まれ、新たな命の誕生に感動し、日々変化していく姿に心奪われる中で、絵本の世界を知ったそうです。絵本がこれほど優れているとは。子どもがいかに大事か。子どもは一過性のものではない。全幅の思い



これで終わります。
今日はどうも。
まもなく84歳
みなさんに会えてうれしかった。
デュプラのような思いを持ちながら
生きて下さい。
2018(平成30)5.19 迄

講演の最後のスライドより

総会報告

東京支部副支部長 鈴木泉

5月19日(土)アルカディア市ヶ谷において東京支部総会が、135名の参加により開催されました。来賓として母校の守屋郁男校長先生、同窓会本部より岸昌代同窓会長、味澤れい子副会長、武藤桂子副会長、石澤路子副会長にご臨席を賜りました。

第一部の定期総会は開会後、校歌斉唱。物故者に謹んで黙祷を捧げました。議事に先立ち五味支部長より「昨年度は、維持費改定を周知することを目標に活動してきた。本日の総会を楽しんでください」との挨拶がありました。

続いて、守屋校長先生と同窓会本部の岸会長からご祝辞を賜りました。議長に25回生

の浅野妙子さんが選任され、平成29年度事業報告、決算報告、30年度事業計画案と予算案、役員紹介について活発な討議後、拍手をもって承認されました。

第二部は、二木六徳先生をお迎えし「二葉の22年」と題した講演をしていただきました。

第三部の傘寿を祝う会では、高女36回生の青木武子様のご挨拶のあと、高校9回生の13名の皆様に祝し花束を贈呈。千田洋子様よりお礼の言葉をいただき、支部への寄付金が贈呈されました。最後に「信濃の国」を皆で歌い上げ、総会は滞りなく終了いたしました。



活発な議論

総会アンケートより

(回収45枚)

アンケートにご協力頂きありがとうございました。

総会全体については、活発な議論がなされ、同窓会に対する熱意を感じた、講演会については、二葉の良さを再認識した、人間味のあるお話が良かった、などの意見をいただきました。

また、今後の講演会については、具体的な内容やお名前が多数あがりました。同窓会活動の今後については、役員負担を軽減する必要性や、支部活動の意義を問うご意見も寄せられました。

東京支部創立70周年に向けては、基金の利用や記念式典、祝賀会を行いたいという一方で、通常通りで良いとのこと回答もありました。

皆様の貴重なご意見を、今後の同窓会運営に役立ててまいります。



傘寿の皆様からのお手紙

総会終了後、傘寿の高校9回生の皆様から
温かいお手紙をいただきましたので、ご紹介いたします



◆伊藤 すみ江 様

花束を

贈られ傘寿の同窓会

卒業となり遊行に入らむ

お心づくしの同窓会ありがとうございました。拙いながら短歌を詠むことに支えられて来た60年です。二葉での国語乙(古文)は久保田健二先生でした。島木赤彦「湖」の短歌に魅せられたのが原点であり、出会いの大切さを今更思います。同窓会の日の二木先生のご講演は青春の心を蘇らせてくださいました。

生、命、平和、創造、芸術、の情熱が伝わり時にユーモアを交えたお話に温かく包まれた時間でした。ありがとうございました。

◆坪田 民恵 様

本日は盛りだくさんの同窓会の中で傘寿を祝う会までしていただきありがとうございます。二木六徳先生のお話、同窓会にはとても合うお話でいろいろ思い出すことが多かったです。女学校の3年間は長く感じられたのに、その後の62年間の短かったこと、でも、皆さんとても80歳とは見えないお元気で、私も頑張らないと思えました。これからも同期会は続けましようという事になりましたが、幹事さんを決めないでみんながスツツとしないと思われたいと思いません。

◆中沢 優子 様

傘寿のお祝いありがとうございます。今、私のアトリエにはお祝いでいただいた深紅のバラがほほ笑んでいます。二葉を卒業して60年、その間ことあるごとに母校の友人に励まされ助けられ歩

んだ道のりのように思います。つまぎ落ち込んだ時、痛んだ心に寄り添っていただいた言葉、嬉しい時の祝いの言葉など心に強く残っています。それは私の原動力ともなり、今日まで制作を続けられております。

60歳で同窓会に関わり、300名を越える出席の総会を出来たのも、この友情の絆あってこそと思っています。そして傘寿を迎えた今、母校の友人、先輩、後輩に「ありがとうございます」と申し上げ、同窓会が友情の輪でつながり、これからも存続し発展するようお願いいたします。

◆野澤 靖子 様

定期総会に傘寿のお祝いをしていただき、とても素敵なブーケを頂戴しありがとうございます。私にとって同窓会は先輩方や現役の方達のご意見やお話を伺ったり、また講演会も楽しみで平凡な日々の中で刺激を受ける特別な一日でありました。今年では自分の中で卒業式と思いい、出席させて頂き役員皆様方の心配りに嬉しく感謝しつつ帰途につきました。今後の同窓会の発展を祈念いたします。

◆小林 園子 様

同窓会に初めて参加したとき、傘寿を迎える先輩方に花束贈呈があり感動したことを覚えております。この度、私たちも傘寿を迎え、お祝いの会をして頂き、感謝しております。

総会の際に行われる講演会は、いつも魅了させられました。二葉総会の伝統行事の一環としてこれからも続けて行ってください。

昔のことですが、私の母(高女15回生)が同窓会に長年かかわっており、幼少の頃、母に連れられ、同窓会に行ったこと、結婚して東京に出てから、高女27回生の叔母と一緒に支部同窓会に出席

したことなどが懐かしく思い起こされます。叔母は今年10月に100歳となる素敵な先輩です。今後の二葉同窓会の発展を祈りながら、明るく健康を維持して長生きしたいと思っております。

◆齋藤 桂子 様

この度は私たち9回生のために心のこもった傘寿の会を催して下さいありがとうございます。大変思い出深いひと時となりました。

又、9回生の集合写真をお送り

いただき、感激を新たにしています。右下の写真はいただいた素敵な花を記念に撮りました。今後若い会員が増加すること、同窓会のますますのご発展を祈念しております。

◆中山 けなと 様

此の度は素敵な花束を贈呈頂きまして誠に有難うございました。長い生涯の中でふと心に浮かぶ二葉の思い出は、活力溢れる先生方の授業やクラスマッチで「若い力」を声の限り歌ったり信濃の国が流れる中皆でやった週末の全校清掃や白馬登山、腕時計もなく目覚まし時計を持って諏訪湖で友達とボートを漕いだ事等、どれもキラキラと輝いて正に青春そのもので、いつも元気が湧いてきます。正に校歌の様に「いくそたび吾等かへりて新しき生命を汲む魂の永久のふるさと」です。そして入学式でしたか片瀬校長先生の「素直であれ、有難きを思え、本気で働け」は新入生の心に深く沁みて生涯支えられて来ました。人生はオンリーワンページです。どうか皆様も心一つの置きどころでどんなことも感謝に振り替えて元氣はつらつので生きて行ってください。



※紙面の都合上、一部割愛させていただいています。